



当日のフグ仕掛け

Tackle Guide
 タックルは専用のカットウ竿のほかカワハギ竿や9:1調子のゲーム口ヤッドも流用できる。また、ケミホタルや花火などの集魚グッズが効果を発揮する場合もあるので用意しておくが安心だ。

▼時はヒガンフラッシュになった



られた。
 10分ほど沖へ移動した水深12メートルに到着すると、「ここは根があるから気を付けて」と船長から注意が出される。
 ここでも最初にフグを掛けたのは影山さんで25センチのショウサイフグをゲット。カットウフグは着底を確認したら手首を返すように軽く20センチほど空合わせをしたらステイ。この空合わせとステイの繰り返しで、ステイの時間は通常5秒ほどだが影山さんは3秒ほどと短い。

今の時間帯は短いステイと頻繁なシヤクリがフグへのアピール度が高いのだろう。その点を仲間に伝えると、「きました、きました」と釣友の山崎さんが30センチのショウサイフグを釣り上げてニンマリ。左舷トモの齋藤さんも40センチに迫るショウサイフグを釣り上げる。
 しかしここでも連釣とはいかないことから小移動を繰り返し、7時35分に太東沖の12メートルタチへ。
 ここも根がきつく、その証拠に右舷トモの赤星さんが釣り上げたのは岩礁帯を住みか

がきたところで合わせを入れる。カンカンカンとたくよくな反応で30センチのヒガンフグを釣り上げた。
 すると各所でヒガンフグが釣れ上がり、まさにヒガンフグのシーズンがスタートしたので再びカメラを持って船内を駆け回る。
 ちなみにヒガンフグはショ

次投ではクンと穂先を引き込むような魚信がきたら、これは根掛かりの証拠。カットウバリはカエシがないのでここで手を緩めるとバラシの原因ともなりかねない。テンションをキープしつつ25センチのショウサイフグを釣り上げる。
 折フツと軽くなるが、これは食い上げている証。カットウバリはカエシがないのでここで手を緩めるとバラシの原因ともなりかねない。テンションをキープしつつ25センチのショウサイフグを釣り上げる。

とする35センチのヒガンフグだった。
時ならぬヒガンフグ
 釣友の堀君が30センチ、影山さんが35センチのショウサイフグを釣り、それを写真撮りした8時過ぎから私も参戦。チャットと軽い空合わせを繰り返していると穂先にコツとシグナルが出た。間髪入れず竿を立てるとカッーンというらしい手応え。
 リーリングを開始すると時折フツと軽くなるが、これは食い上げている証。カットウバリはカエシがないのでここで手を緩めるとバラシの原因ともなりかねない。テンションをキープしつつ25センチのショウサイフグを釣り上げる。

ウサイフグに比べて身が硬いので冷蔵庫で4〜5日寝かせたのちに刺身にするとトラフグに勝るとも劣らないうまさになる。
 結果的にヒガンフグは船中18尾釣れたのだが、代償として仕掛けのロストも増えてきた。中には5個も仕掛けをなくした人もいて「フグはほしいが仕掛けも惜しい」といった痛し痒しの展開だ。
 そんな中、まったく仕掛けをロストしなかったのは釣友の堀君。彼はヒガンフグには目もくれず、海底から1.5メートルと高いタナでショウサイフグ一本に絞った、いわゆる宙の釣りに徹していた。そのかいあって確実にショウサイフグの数をのばしている。
 これはこれでアリかと思っ

ここでポツリポツリとショウサイフグが顔を出して10時半に沖揚がりとなった。当日の釣果は18〜40センチのフグが3〜16尾と少々寂しい結果となったが、翌日は5〜26尾にトラフグも3尾交じ

開幕直後は手探り状態のため、今後ポイントが絞られればさらに釣果も伸びるはず。皆さんも釣って楽しい、食べておいしいショウサイフグを釣りに大原へ出かけてみてはいかがだろうか。



▲今後の展開が楽しみだ

船宿information

外房大原港
利永丸
 ☎0470-62-4601 (詳細は巻末の情報欄参照)
 ▶料金=フグ乗合一人1万円。水付き。付けエサは別売で1パック500円
 ▶備考=出船4時半、10時半沖揚がり。無料駐車場あり



中井 春樹船長



▲大原のショウサイフグが今シーズンも開幕

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

9月になって秋らしい釣り物が増えてきました。開幕したばかりの魚、シーズン佳境を迎える魚、それぞれ季節を感じられるのも船釣りのいいところです。

大原のショウサイフグ開幕 今後の釣果上昇に期待!

◎外房大原港発↓大原〜太東沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

関東屈指の大型漁港である外房大原港はマダゲイ、ヒラメ、イサキ、オニカサゴ、ハタ、マダコなど四季折々に様々な魚を釣らせてくれる。そんな中でも9月に解禁されるショウサイフグは大原の代名詞の一つとも言われる釣り物となっている。
 今シーズンの模様はいかがだろうと開幕2日目の9月2日に、大原港の利永丸へ釣友3人と連れ立って出かけてきた。

釣れば良型ばかり

当日の乗船者は10名で、私たちは左舷のミヨシから並んで席を確保、全員の準備が整った4時半に出船となった。船長に初日の釣果を聞くと9〜26尾だったとのこと。20分ほど走った大原沖の水深16メートルに到着すると、「やってください」との合図

知得! 根の荒い場所の対処法

根の荒いポイントでは根掛かりで仕掛けのロストは付きもの。対処法としては、着底したら素早く1メートルほど底を切るか、仕掛けを着底させず海面からタナ取りする。仕掛けの工夫としては、カットウバ리를1本にしたたり、思い切ってハリスを細くして根掛かりしてもハリスだけ切れるようにするのもいいだろう。また、カットウバリ仕掛けはなつき仕掛けにするのも一手だと思ふ。



▲根の荒いポイントでは底を切るのも手

開始早々に釣友の菱沼さんがヒツトさせて20センチほどのショウサイフグを釣り上げると、右舷ミヨシ2番の齋藤さんが同級を抜き上げる。右舷ミヨシの影山さんも同級を連釣すると「型のいいのが上がったよ」と声がかかる。

振り向くと仲乗りさんが35センチの良型ショウサイフグを取り込んでいた。この調子でいきたいところだが、その後フグからのラブコールが途切れてしまったところで5時10分に移動が告げ



●すずき よしかず/大盛り無料のラーメン屋。頼みもしないのに大盛りが出てきた。見た目判断しないでよ。また太っちゃったじゃないのさ。